

# 大津企業景況調査報告書

(第91回)

令和2年10月 ～ 12月期 実績

令和3年1月 ～ 3月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について  
(令和2年10月～12月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	1 2 社	1 0 社	8 3 . 3 %
卸 売 業	1 3 社	1 1 社	8 4 . 6 %
小 売 業	2 5 社	2 0 社	8 0 . 0 %
サービス業	3 1 社	2 5 社	8 0 . 6 %
建 設 業	1 9 社	1 4 社	7 3 . 7 %
合 計	1 0 0 社	8 0 社	8 0 . 0 %

3. 調査期間

調査対象期間は令和2年10月～12月とし、調査時点は令和2年11月15日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

## 景況感は全体では2期連続改善するも、先行きは不透明

令和2年10月～12月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の▲53から▲34へと19ポイント持ち直し2四半期連続で改善したものの、プラスへの道筋は未だ見えていない。業種別では、卸売業は▲55から▲27へ、小売業が▲48から▲20へといずれも+28ポイント改善し、サービス業も▲57から▲36へと+21ポイント改善した。一方で、建設業が▲33から▲29へ、製造業が▲73から▲70へと改善はみられるものの足取りは重い。巣ごもり需要の裾野拡大や業態転換の効果が出始めている様子ではあるが、引き続き新型コロナウイルスによる消費の低迷や需要減少が幅広い分野で影響を与えていることに変わりはない。

先行きの業況判断DIは、全体では▲34から▲24へとマイナス幅は縮小するが業種によりまだら模様で、建設業、製造業、サービス業では改善が見込まれるものの、小売業では横ばい、卸売業でマイナス幅が拡大するとみている。経済活動の再開により一部の業種では改善が窺えるものの、コロナ第3波拡大の懸念もあって、先行きは不透明な状況となっている。

### □ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では改善の様子も、製造業、建設業では足取り重い

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲53から今四半期は▲34と2四半期連続の改善となった。業種別では卸売業、小売業、サービス業で+21～+28ポイントと大幅改善したが、建設業、製造業では小幅改善に留まっている。

### □ 売上DI（前年同期比）は、全体では改善も、業種によりまだら模様

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の▲64から▲46へと改善した。業種別では、サービス業が▲75から▲40へ、小売業が▲71から▲35へと大幅改善し、卸売業も▲73から▲46へと改善した。一方で、建設業は±0から▲50へと大幅悪化、製造業は▲82から▲80の足踏み状態などまだら模様となっている。

### □ 採算DI（前年同期比）は、全体として改善が継続するも、建設業では悪化

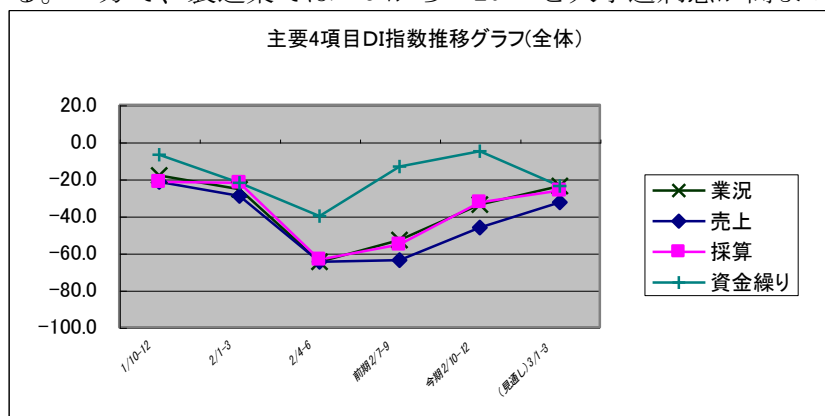
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲55から今四半期は▲33へとさらに改善した。卸売業が▲73から▲27へ大幅改善し、小売業も▲57から▲15へ、サービス業も▲61から▲36へと改善した。一方で、前期一旦改善した建設業が▲8から▲29へと再び悪化し、製造業は▲73から▲70へと足踏み状態となっている。

### □ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、全体として改善が継続するも、建設業で悪化の兆し

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲13から▲5へとさらに改善した。特に小売業は▲5から+20へとプラスに転じた。製造業、卸売業、サービス業も押しなべて改善した。一方で、建設業では▲8から▲14へと悪化しており、業種によっては政府のコロナ対策融資施策の効果が薄まっている兆しも見て取れる。

### □ 従業員DI（前年同期比）は、全体で人手不足が進むも、製造業では人手過剰感が高まる

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前四半期の+6から今四半期は+14へと、全体では業況の改善に伴って人手不足感が高まったとみられる。卸売業は▲9から+9へ、小売業で+14から+25へ、サービス業でも±0から+12へと人手不足感が高まっている。一方で、製造業では▲9から▲20へと人手過剰感が高まっている。

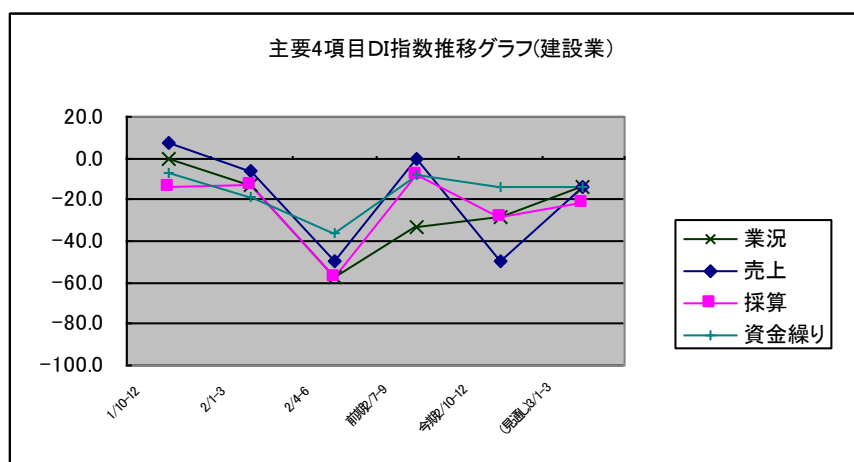


## 建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲33 から今四半期は▲29 へとマイナス幅が縮小したものの、実態は依然厳しい状況にある。個別指標をみると、「売上」は前四半期±0 へと大幅に改善したのが、一転して今四半期は再び▲50 へと大幅に悪化し、「採算」についても▲8 から▲29 へと悪化している。「資金繰り」も▲8 から▲14 へと悪化しており、国の融資策が一時的なカンフル剤の役目を果たしたものの、売上や採算の悪化が再び資金繰りに影響してきているとみられる。

建設業は、前々四半期辺りから新型コロナによる建設現場での作業停滞や資材の調達難などから業況が悪化してきた。その後、一部での経済活動の再開もあって、事業環境は回復の兆しが見受けられたが、コロナの第3波拡大の影響も出始め、再び悪化状態に陥っている。

「従業員」は+33 から+29 となり、売上の悪化に伴い人手不足感は緩和してきている。

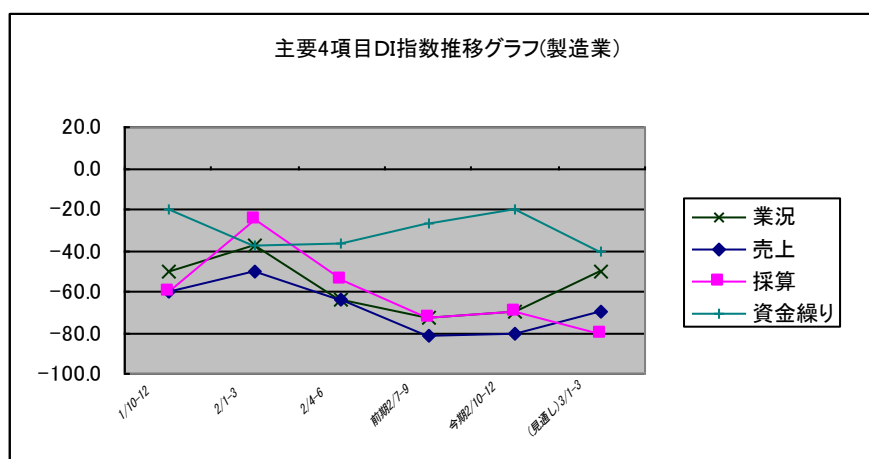


## 製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲73 から今四半期は▲70 へとほぼ変わらず、厳しい状況が継続している。個別指標をみると「売上」は▲82 から▲80 へ、「採算」についても▲73 から▲70 へと足踏み状態であり、「採算の水準」については▲27 から▲50 へとさらに悪化している。「資金繰り」については▲27 から▲20 へと改善しており、国の助成金や補助金の効果が表れてきている様子も窺える。

製造業は前々四半期辺りから新型コロナの影響を受け始め、前四半期にその影響はさらに拡大し、今四半期も厳しい状況が続いている。全国的な設備投資の減少の影響もあり、取引先からの受注量の減少や材料や資材の調達難が景況感の悪化に繋がっているものと思われる。

「従業員」については前四半期の▲9 から今四半期は▲20 となり、仕事量の減少の影響による人手過剰感はさらに高まっている。

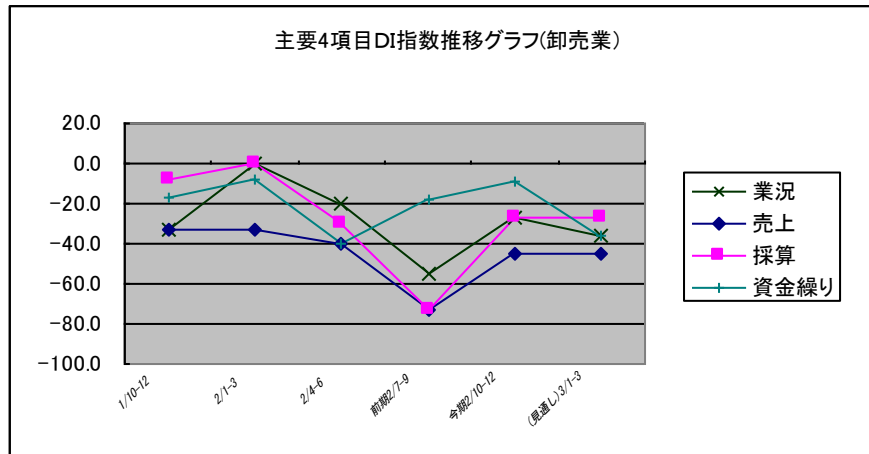


## 卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲55 から今四半期は▲27 へと改善した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の▲73 から今四半期は▲46 へ、「採算」も前四半期の▲73 から▲27 へと大幅に改善した。一部での経済活動の再開や巣ごもり需要の拡大に連動して、卸売業の売上に繋がる業務用や小売り用商品の業況改善が、景況感の改善に繋がっている様子が数字の上では見られるが、先の見通しが立たないとの現場からの声も聞こえてくる。

「資金繰り」については、▲18 から▲9 へと改善しており、助成金や補助金および国の融資策が効を奏している様子が窺える。

「従業員」は▲9 (人手過剰) から+9 (人手不足) へとプラスに転じ、仕事量の増加による人手不足感が出てきている。

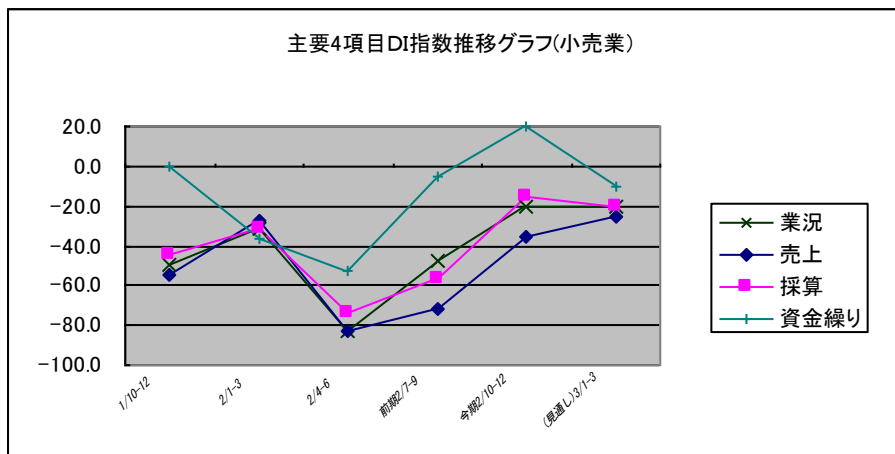


## 小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲48 から今四半期は▲20 へとさらに改善が進んでいる。個別指標をみると、「売上」は▲72 から▲35 へ、「採算」についても▲57 から▲15 へと、共にマイナス幅が大きく縮小している。一部での経済活動の再開や巣ごもり需要の裾野の広がりが各指標の回復に影響しているとみられる。一方では、業界の現場の声からは新型コロナウイルスへの対応や経済環境の変化への対応など困難な状況にある様子も窺える。

「資金繰り」は他業種と同様に、前四半期の▲5 から今四半期は+20 へと大幅に改善しており、この間の国のコロナ対応融資施策の効果が表れているものとみられる。

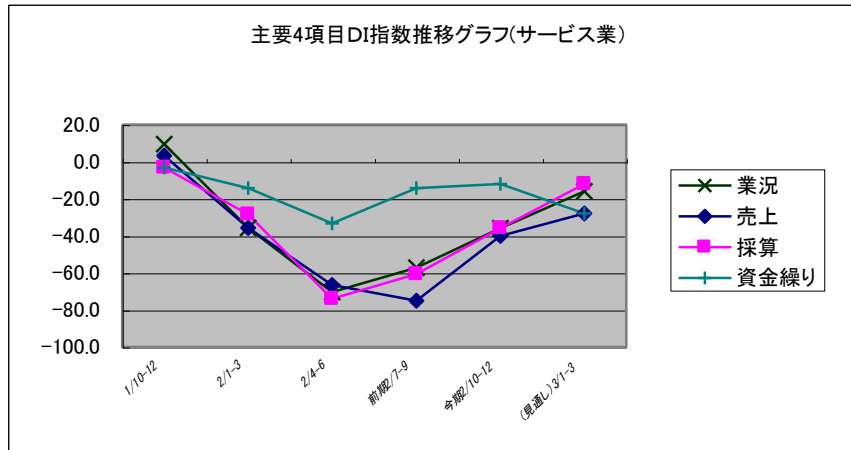
「従業員」は前四半期の+15 から今四半期は+25 へとなり、仕事量の増加に伴い、人手不足感がさらに高まっているものとみられる。



## サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲57 から今四半期は▲36 へとさらに改善が進んでいる。個別指標をみると、「売上」は▲75 から▲40 へ、「採算」も▲61 から▲36 へ、「問合せ」も▲54 から▲20 へと改善しており、引き合いも活発化している様子が見てとれる。

Go To キャンペーンなどを契機として、県内での移動や近隣他府県からの近場旅行、あるいはインターネットを活用した新たな事業機会の創出など新たなビジネス機会を創出しているケースもあると思われるが、宿泊業では売上の大幅減が続くなど厳しい状況も窺える。「従業員」は±0 から+12 となり、仕事量の増加に伴い、人手不足状態となっている。



来四半期（3ヵ月後）の「業況」DIは、今四半期の▲34 から▲24 へとマイナス幅を縮小するとみている。個別指標をみると、「売上」は▲46 から▲33 へ、「採算」についても▲33 から▲26 へ改善するとみている。「従業員」については、全体として+14 から+13 へと人手不足感に大きな変化はないとみているが、滋賀県全体の有効求人倍率は6ヵ月連続 1.0 を下回っており、引き続き動向に注意する必要がある。

業種別の「業況」DIでは、製造業は今四半期の▲70 から来四半期は▲50 へ、サービス業も▲36 から▲16 へ、建設業も▲29 から▲14 へとマイナス幅が縮小すると見ている。一方で、卸売業は▲27 から▲36 へと悪化し、小売業では現状の▲20 を維持するとみている。

本調査時点頃から新型コロナの第3波が報道され、感染再拡大が懸念される中で、個別企業からは、先行き見通しが立たず今後の方針が定まらないとの不安の声が出ている。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は30%で、3ヵ月前の22%より8ポイント増加しており、設備投資に対する意欲が若干戻ってきている結果となった。業種別では、卸売業が46%、製造業が40%、小売業が30%、建設業が29%、サービス業が20%となっている。

投資する企業の投資内容の割合は、「設備更新」が44%で最も多く、新型コロナによる業況の先行きは不透明であるものの、老朽化設備の入れ替えは必要と判断されていると思われる。

「合理化・省力化」については、全体で3ヵ月前の30%から15%へ、「生産力増強」は全体で20%が15%となり、これらの前向きな設備投資への意欲は弱まっているとみられる。

投資方針は、「計画通り」が3ヵ月前の43%から42%へと変わらず、「景気により見直す」が38%から46%へ増加しており、先行きの警戒感が強まっていることが窺える。

田中マネジメント事務所  
MBA・中小企業診断士 田中清行

**(今の経済情勢に対する意見)** 以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・助成金や補助金を活用し、この先に必要と思われることに投資しています。働くということの色々と考えさせられます。(製造業)
- ・当社は主に業務用のお客様が中心となっておりますので、とにかくコロナの影響が一番の問題です。先が見えない状況で見通しも立たないのが現状です。(卸売業)
- ・新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。(小売業)
- ・コロナ感染の影響からしばらくは回復できないと考えられる。(小売業)
- ・転換点はわかるが方向や価値が揺れるので難しいと感じています。変化に適応する柔軟性が大切とわかるが、これも同じ様に自分の中での軸が定まらない事が課題。びびりながらも一歩前に出ていく事と思っています。(小売業)
- ・コロナ資金を公庫、銀行から受け今のところ乗り越えているが、月々の経費分約45万円不足気味、このまま況気が返らなければ年末が大変になる。学生達の買い替えは公庫から借入出来てありがたかったです。何とかまめにメンテナンス、顧客の需要開拓・受注に力を注ぎたい！！営業力を強めるしかない。8月・9月はこの猛暑で苦戦です。(小売業)
- ・新型コロナウイルスによる第二波襲来から今後の需要予測が困難で、事業継続の見通しがつかない。事業中断か廃業にするか悩ましい時期である。(サービス業)
- ・コロナの影響が幅広い分野で深刻になっています。(サービス業)
- ・7/22よりGoToトラベルキャンペーンが始まったが、コロナウイルス感染拡大の為にキャンセルが増加した。4~6月に比べ予約数・集客は改善・回復されたが、前年比から見れば70~80%の売上。春の修学旅行の振替が秋に延期されていたが、このコロナ禍の為に軒並本年度は中止。その分の売上減は大きい。(サービス業)
- ・生活様式の変更で伸びる需要もあり、企業は知恵を絞る必要がある。積極的な設備投資に踏み切るのはリスクが伴う。アクセルとブレーキをどう踏み分けるか危機の先を見据えた冷静な経営判断が求められる。(サービス業)
- ・県や市に設備投資に対する補助金をお願いしたい。(建設業)
- ・コロナウイルスが全国に多発していて、いつ火の粉がかかってくるか心配でなりません。(建設業)

以上

## DI 指数一覧表

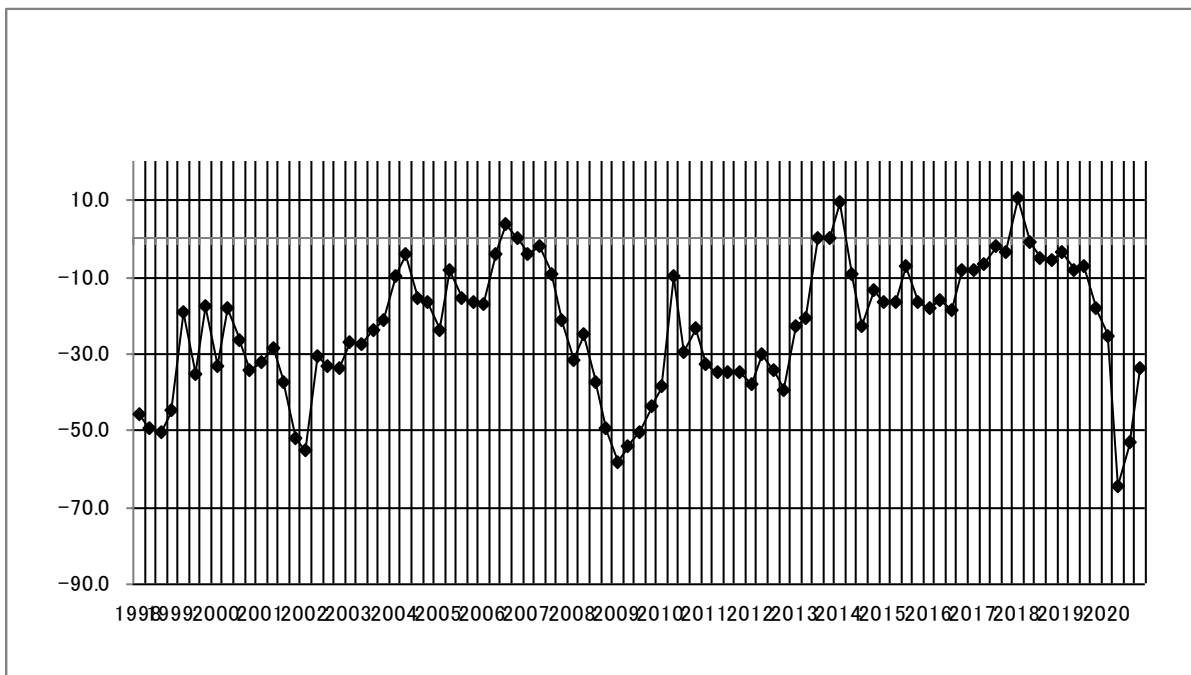
	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲33.8	▲23.8	▲46.3	▲32.5	▲32.5	▲26.3
建 設 業	▲28.6	▲14.3	▲50.0	▲14.3	▲28.6	▲21.4
製 造 業	▲70.0	▲50.0	▲80.0	▲70.0	▲70.0	▲80.0
卸 売 業	▲27.3	▲36.4	▲45.5	▲45.5	▲27.3	▲27.3
小 売 業	▲20.0	▲20.0	▲35.0	▲25.0	▲15.0	▲20.0
サービス業	▲36.0	▲16.0	▲40.0	▲28.0	▲36.0	▲12.0
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し	10-12 月期 動 向	1-3 月期 見 通 し
全 体	▲7.5	▲13.8	▲23.8	▲25.0	13.8	12.5
建 設 業	14.3	21.4	▲35.7	▲14.3	28.6	35.7
製 造 業	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲50.0	▲20.0	▲10.0
卸 売 業	9.1	▲9.1	▲18.2	▲18.2	9.1	9.1
小 売 業	▲10.0	▲10.0	▲10.0	0.0	25.0	10.0
サービス業	▲8.0	▲24.0	▲20.0	▲44.0	12.0	12.0
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	



	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し	10-12月期 動向	1-3月期 見通し
全 体	▲5.0	▲23.8	7.5	3.8	7.5	3.8
建 設 業	▲14.3	▲14.3	14.3	14.3	14.3	14.3
製 造 業	▲20.0	▲40.0	10.0	0.0	10.0	10.0
卸 売 業	▲9.1	▲36.4	0.0	0.0	▲9.1	▲9.1
小 売 業	20.0	▲10.0	5.0	0.0	10.0	0.0
サービス業	▲12.0	▲28.0	8.0	4.0	8.0	4.0
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

## 大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>